

本来なら兵庫共励会総会で皆様と直接お目にかかれたのですが、昨年に統いて書面による総会になり、残念なことでした。

NPO法人兵庫共励会は、1972年10月に「兵庫身障者共励会」として発足し、1987年9月総会において「兵庫キリスト教障害者共励会」と改称され、その後NPO法人兵庫共励会となりました。2022年には創立50周年を迎えます。

兵庫共励会の機関紙『きぼう』第9号で、初代会長兼清章牧師は、「苦しみの中に喜びを見出し、弱さの中にあつても力に溢れ、死の中にもいのちを見出すという・・・道

による総会になりましたが、昨年に統いて書面による総会になりました。

＊＊＊



白井 進 理事

「光り輝く日々のために 総会に際して」

兵庫共励会理事 白 井 進



No.77
2021.8.1

〒672-8045	特定非営利活動法人兵庫共励会
姫路市師磨区中野田四一六三八	
○七九一二三五八八一九	
○一五一〇一五四二七五八	
印刷所	振替 FAX
新生会	○七九一二三五一一〇一六
作業所	○一五一〇一五四二七五八
新 生 会 作 業 所	田 守 男

こそ、主イエスが先立ち給う道」と記され、共励会の歩むべき道を示唆しておられます。共励会は、イエス・キリストと出会い、全てを受け入れられて救いを与えられた者が、弱い者に働くかせられた恵みと喜びを他の人に伝えようと、始められました。その活動は、心身に弱さ(障害)を抱っている人たちを中心に、救いの福音の力を伝え、共に祈り、共に励まし合い、信仰によって共に歩む仲間を作り出そうというものです。

教会が主イエスを中心とする愛の共同体になるためには、イエスの宣教といやしのわざに倣う(学びつつ従う)必要があります。

主はこの世にあつて肉体的・精神的・社会的な重荷(弱さ)を負つている人たちをそのくびきから解放し、生きることは幸せであり、喜びであり、神の御心にかなつたことをとして、生きる希望をもたらされました。聖書が記しているように、そのように弱さを担う人は、強い人が憐れむ対象ではなく、社会がその人の持つている賜物を用いて豊かになるために必要不可欠な一人ひとりになります。聖書は弱さを担う人に語ります。神はあなたを必要としておられます。神は弱さを担うあなたに働いて、力を示し、神のみわざをあらわす器として用いられます。神の栄光をあらわすためにあなたを必要としておられます。

歴史に目を向けてみると、初期の教会の宣教が成功したのは、周りの世界からの偏見やローマ帝国の迫害があつたにもかかわらず、主イエスによる救いの伝道といと小さい者への愛のわざが、時代や人が変わつても継続的に行われていつたからでした。その時よく読まれたのは、マタイによる福音書25章40節でした。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」。

ここで言われている「最も小さい者」とは、飢え渴いでいる者、旅で宿のない者、衣服を欠いている者、病気を患っている者、牢

に繋がれ孤独の中にいる者（37節～39節）です。当時はまだ一般的な社会福祉の考え方ではなく、教会に連なる隣人への愛のわざが語られているのです。しかし、信仰者同志の地道な愛のわざが行われている姿を見て、世間の人の教会への信頼が増し加わり、交わりと礼拝に加わる人が多くなっていきました。日常の厳しい生活の中につても、人々は闇の中に輝いているまことの光を見出したのでした。

人の幸せはどこにあるのでしょうか。人は何によつてそれを感じることができるのでしょうか。人は自分が受け入れられ、支えられ、愛されている時、幸せを感じるのではないでしようか。共励会の名称の「共に」はそれを目指しているのです。人は幸せな時、笑顔を見せ、ほほえみ、喜びの声をあげます。

誰にもその人から笑顔を取り去る権利はありません。

イエスと出会った人は笑顔と喜びにあふれたと記されています。全身で喜びを表しました。聖書はイエスの顔の表情、体格、身なりについて伝えていません。しかし、彼と出会った人の声やしぐさから、イエスの包容力の大きさ、人を引きつける力の大きさ、この方になら自分の全てを委ねていいと思わせる魅力があつたことがわかります。

（2）

マルコによる福音書5章1節～20節には、精神の病のため、妄想や発作や自傷を繰り返し、苦しみの中にいる人が登場します。すると長年イエスはその人をいやします。そして、イエスと一緒に伝道活動をしたいと願いました。しかしイエスはそれを許しませんでした。自分の家に帰り、身内の人に出ました。神があなたを憐れみ、何をしてくださったかを伝える人になりなさい」と言われたのです。（19節）

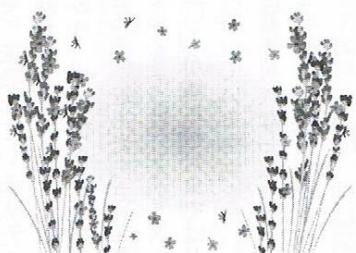
言葉を変えて言えば、こうなります。あなたが生まれてから今まで全く気づいていなかつた幸せを、神は今与えてくださいました。神は愛するためにあなたを世に生まれさせ、ずっと愛を注ごうとしておられたのだ。人がどう言おうとも、どう見ようとも、あなたが神の愛に包まれている確かさを、わたしは今伝えたのだ。これからは、神が喜ぶような歩みを持つて、この地で生きていかなさい。神に愛されるために生まれてきたことを人々に証しし、伝え続けなさい」と。

イエスが目指したのは全ての人の救いであります。教会が知的、能力的に優れた（？）人が集まる群れであつたとしても、それはイエスが目指した「全ての人に向けられた宣教」が生み出した「全人的に開かれた教会」と、言えるでしようか。教会が「全

ての人を招く伝道」をしているのなら、「わたしたちは心身に障害を持つ方々を受け入れる力（余裕、ノウハウ）はありません」などと言えるでしようか。

それとは逆に、何らかの重荷や課題を担っている人を教会に迎えた時、それを神の恵みを分かち合うチャンスと受け止められないでしようか。

コロナ禍に振り回されてきたこの2年です。この時こそ、不安や無念さ、孤独や貧しさに苦しむ人々に、時が良くて悪くても愛と希望の福音を与え続けた主イエスを見上げて従つていく共励会でありたい、活動を充実させていきたいと念願しています。



「私が信仰を持つに至った証し」

日本基督教団 鈴蘭台教会

信徒 足 立 忍

「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ヨハネによる福音書三章十六節

私が洗礼を受けたのは、昭和三六年十一月二六日で、寒くなつてきている時だつたので、風邪を引かないようについている配慮から、風呂を沸かし、風呂場で受けました。

私は当時は盲学校の中学生三年生で、京都市内で寄宿舎生活をしていました。

盲学生数名で仲良く近くの教会に通い、求道生活の後、仲間五人で一緒に洗礼を受けました。

私は中学生になる以前は舞鶴市内で両親と一緒に生活していました。両親がクリスチヤンで、幼い時から教会の日曜学校に行くように勧められて、教会に行っていました。聖書の事はあまりわかりませんでしたが、とても楽しかった事を覚えていています。中学生になつて、洗礼の準備の時、「ヨハ

ネによる福音書三章十六節」を示され、決心することが出来ました。

今は、惰性で教会に通つているのではなく、いかと、危惧していますが、それでも振り返つてみると、神様に守られて今まで歩んできたことを実感し、神様に感謝しています。

これからも、主を信じて生かされていきたいと願うばかりです。

「しかし、私の願いではなく、御心のままに行つてください。」

ルカ二二章四二節

日本基督教団 神戸聖愛教会

信徒 濑 戸 昭

私は高校三年生のときに洗礼を受けました。信仰歴はほぼ六十年になります。

長いだけなのですが、今までを振り返りますとともにダメだと思う時に人に助けられたり、職場が異動になつたりして何とか今日まで過ごしてこられました。背後に神さまのお守りがあつたのだと信じています。

これからも「私の願いではなくみこころをなしてください」と祈りつつ与えられた務めをはたしていきたいと願っています。

私はどちらの立場も分かるのですが、どちらの立場にも立てない。随分悩みました。正直に言いますと、自分はそんな責任から逃れたい。施設長や職員のことを考えるよりも自分さえよければいいという気持ちも強かつたです。

家に教会の先輩からいたイエスさまのゲッセマネの祈りの彫刻の額があるのです。そこでこの問題を考える時にはその額のある部屋で考えることにしました。自分勝手な気持ちとの闘いの中で「私の願いではなくどうぞ神さまのみこころがなりますように」と祈ることにしました。

これからも「私の願いではなくみこころをなしてください」と祈りつつ与えられた務めをはたしていきたいと願っています。

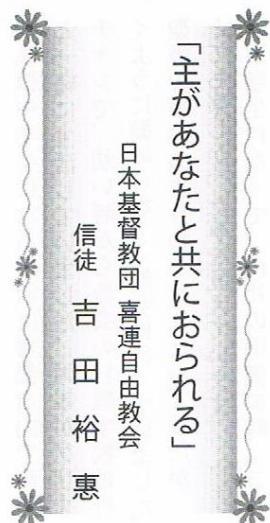
こり、職員から要望書を受け取ることになりました。

私はどちらの立場も分かるのですが、どちらの立場にも立てない。随分悩みました。

「主があなたと共におられる」

日本基督教団 喜連自由教会

信徒 吉田 裕恵



「今度、ラーメン食べに行きたいんやけど」と笑顔で話す父。「解った、今度食べに行こうね」と返す私。そして当日私は助手席に乗り、夫が運転する車で父を迎えて行く。ナビを頼りに目的地に向かうが、直進予定が右折レーンに、思つたように進めない。その後ようやく駐車場に着きお目当てのラーメン店へ。日曜日という事もあり人の数に驚いた。父と夫はラーメンと炒飯のセットと餃子を注文。私はラーメンを注文した。食事が細くなつた父。完食は出来なかつたが、満足そうな笑みの父。その父は肝臓癌で今年五月末までの命と言われていた。

神様ありがとうございます。今日現在、父を囲み共に食事が出来ている事に感謝。

また、以前より「裕恵の側で暮らしたい。大阪市内で暮らしたい」と切望していた父の思いが八七歳でようやく叶えられた。丹波篠山市から大阪へ引っ越して来た。以前、会社を経営していた父は、本社を篠山に構えて大阪府下にいくつかの営業所を出して

いた。「わたしあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れではならない。おののいてはならない。あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたと共におられるのだから。」

ヨシュア記一章九節

「父が引っ越す前から、何度も祈り、話す中で、「協力的な夫と、残された時間を出来る限り共に過ごす」という神様から示された思いで一致しました。

新型コロナウイルス感染のためにお休みしていましたが、再開しています。
感染防止に気を付けながら食事を共にし、キリスト教に関するお話を聞く、交流の良い機会となっています。
食事は各自でお弁当をご持参ください。
お茶とお菓子は準備させていただきます。

参加費は資料の印刷代として200円を予約なしでご自由に参加できます。
問い合わせ先

日時 偶数月の第2金曜日
(4・6・8・10・2月)
場所 日本基督教団 神戸聖愛教会
新神戸駅徒歩5分
石川久子 078-753-0329



コロナ禍で開催できていない一泊修養会の写真です(2012年10月開催)この写真に写っている5名の方が天国に召されました。寂しいことですが、天国で再会できる事を確信しています。

先日の理事会で、兵庫共励会50年誌を2022年に発行することが決定し、第1回の編集員会を8月5日に開催することになっています。
また、理事会で兵庫共励会のこれから活動方針について、会員の皆さまのご意見をお聞きする機会を持つことが決定しました。
コロナが早く収束し、皆さまお会いできる日を祈り待ち望みます。

第 1 号議案

2020年度
事 業 報 告 書

1 事業概要

特定非営利活動法人として事業開始して 7 年目の歩みを進めてきました。

法人の目的は、兵庫県に在住する障がい者と共に励まし合う事を通して、生き甲斐作りと豊かな生活作りを目指す事となっています。2020年度は新型コロナウイルス感染症のため、当初計画していた活動が不可能となり開催はできませんでした。

年 2 回の機関紙の発行は計画通り実施する事ができました。

2 事業報告

計画に掲げた事業について、理事会で議論を重ねた結果、中止する事業が多くなりました。

(1) 研修会は一日研修会・一泊研修会とも中止いたしました。

(2) 小旅行については、中止しました。

(3) ランチョンは偶数月の第 2 金曜日に日本キリスト教団神戸聖愛教会で開催、昼食の後、講師からお話を聞いて交流の時を持つ計画していましたが、新型コロナ感染症のため 6 月・8 月の 2 回のみの開催となりました。延べ参加人数は 27 名でした。

(4) 機関紙発行 7 月と 12 月の 2 回発行し、会員などに配布いたしました。

(5) 会員宅・福祉施設・病院訪問

新型コロナ感染症のため中止いたしました。

(6) 相談 特に特別な場は設定しませんでしたが、ランチョンの交流時等に相談する時を持ちました。

3 総会及び理事会報告

定期総会：2020年 5 月 26 日 姫路あけぼの教会にて開催いたしました。

理事会：2020年 4 月 25 日（書面）・2020年 8 月 18 日・11 月 10 日・2021 年 3 月 16 日（対面）

4 回開催いたしました。

4 特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名	プロジェクト内容	実施月 実施回数	実施場所	対象者	収益(円)
障がい者への支援事業	研修会	中止			0円
	小旅行	中止			
	ランチョン交流会	6・8 月 2 回	神戸聖愛教会	障がい者・支援者 27 名	
	機関紙発行	7 月 12 月 2 回		障がい者・支援者 600 名	
	会員宅・福祉施設・病院訪問	中止			
	相談	適宜			

第2号議案 特定非営利活動法人兵庫共励会

2020年度活動決算書

(単位：円)

科 目	金 額
I 経常収益	
1. 受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費	50,000 79,000
2. 受取寄付金 受取寄付金	10,045,000
3. 受取助成金等 受取地方公共団体助成金 受取民間助成金	80,000
4. 事業収益 集会参加費	0
5. その他収益 受取利息 雑利益	4 0
経常収益計	10,254,004
II 経常費用	
1. 事業費	
(1) 人件費 給与手当 法定福利費 人件費計	0 0 0
(2) その他経費 講師謝金 消耗品費 印刷費 通信費 訪問費 会場費 諸集会開催費 雑費 その他経費計	6,000 330 99,450 47,736 0 9,000 0 21,000 0
事業費計	183,516
2. 管理費	
(1) 人件費 給与手当 法定福利費 人件費計	0 0 0
(2) その他経費 消耗品費 印刷費 通信費 旅費交通費 光熱水費 保険料 会議費 租税公課 雑費（慶弔費等） その他経費計	2,754 1,780 9,019 3,670 0 38,600 26,800 0 13,972 0
管理費計	96,595
経常費用計	280,111
当期正味財産増減額	9,973,893
前期繰越正味財産額	288,691
次期繰越正味財産額	10,262,584

献金者名

編集後記

■団体
在日大韓基督神戸教会・夙川東教会・神戸愛生伝道所・姫路あけぼの教会・ひまわりの里伝道所・神戸栄光教会・姫路教会・神戸聖愛教会

■個人
今城輝雄・小川キヨ子・小島桂世子・川崎栄子・柴田富士子・瀬戸昭・中道澄春・日垣數子・古澤輝勝・三木保・三宅敏・森康彦・山下妙子
※古澤輝勝兄からは多額の献金をいただきました。古澤基金として活用させていただきます。

■助成金
兵庫教区伝道部各種伝道委員会・播州地区障がい者に関する委員会
正会員会費 25名 賛助会員会費 6名
(氏名は省略させていただきます)

ありがとうございました。

梅雨が明けて、盛夏を迎えました。ワクチンの接種が始まつて、コロナ禍も収束するのではないかと期待しましたが、異様の蔓延で第五波が私たちの生活を大きく変えるかもしれません。兵庫共励会も感染症防止のため、例年開催してきた集会の開催が困難な状況が続いています。また、入院されたり、施設に入所されている方たちの面会も困難です。この機関紙では、このままではいけませんが、七月発行の予定が遅れてしまっています。また、いましたことをお詫びいたします。この機関紙では、このままではいけませんが、七月発行の予定が遅れてしまっています。また、いましたことをお詫びいたします。この機関紙では、このままではいけませんが、七月発行の予定が遅れてしまっています。また、いましたことをお詫びいたします。この機関紙では、このままではいけませんが、七月発行の予定が遅れてしまっています。また、いまのこと